

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
建築法規	建築学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90	15	30時間	必須

授業の概要

社会で実際に建築行為等をする場合には法規を避けて通ることはできません。
規制である反面、より良い都市・建築環境を創るためにハイブルでもあります。
1年次に製図の授業で作図した住宅等をモデルに、建築基準法を中心にその内容を解説する。

授業終了時の到達目標

一戸建ての住宅を設計する際に必要となる法令知識を身につける。

(基本目標:C評価以上)

- ・与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる
- ・考查(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により60点以上を獲得できる

(標準目標:B評価以上)

- ・与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる
- ・考查(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により70点以上を獲得できる

(発展的目標:A評価以上)

- ・与えられた問題に対して適切に法令集等を用いて回答を導くことができる
- ・考查(課題レポート)においての評点に加え、小課題レポートの加点により80点以上を獲得できる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に伴う法的実務経験

時間外に必要な学修

授業で学習した法規定がどのように実際の建物に影響を与えていたか、自宅や通学途中に目にする建築物について考えてみること。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション	授業の注意事項。建築基準法とはどのようなものか。建築基準法について。
2	総括的規定1	用語の定義。 面積と高さ。道路と敷地。壁面席。
3		
4	実態的規定－集団規定	用途地域と用途制限、防火指定。 容積率、建蔽率。 高さ制限と緩和。 日影規制。
5		
6		
7		
8	実態的規定－単体規定	採光、換気。 一般構造、設備。(防火避難規定)耐火要求、法22条区域。
9		
10	実態的規定－防火・避難規定	防火区画、内装制限。 避難施設、非常用の避難施設。
11		
12	実態的規定－構造規定	構造計算、その他構造。 木造、壁量計算、その他の構造。
13		
14	その他関係法規	手続きと建築基準法以外の法令について。(特に消防設備)
15	まとめ	レポートの講評。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書:「超入門 建築法規 イラスト解説による 最新版」 参考書:「建築基準法関係法令集 2025年版」 参考書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 (1年時製図の教科書) 教材:配布プリント	期末考查	100%	質問などはEメールでも受付ます。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
構造2	建築学科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	15回	30時間	必須

授業の概要

- ①練習問題を通して、鉄筋コンクリートの建物にはたらく力を習得する。
②使用する材料の特徴・構造形式・構成を深く理解し習得する。

授業終了時の到達目標

- ①鉄筋コンクリート造の特徴と各構造・構成を理解する。
②鉄筋コンクリート造に使用される各材料の特徴と理解する。
③資格試験に対応できる知識を身につける。

実務経験有	実務経験内容
有	組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。 様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。

時間外に必要な学修

授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。

疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。

聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。

回	テーマ	内 容
1	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋 :コンクリートの特徴、鉄筋の特徴
2	第4章 鉄筋コンクリート造	2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識 :鉄筋コンクリート造の特徴、鉄筋コンクリート造の原理、
3	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
4	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
5	コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
6	コンクリート強度に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
7	鉄筋コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
8	鉄筋コンクリート一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
9	配筋に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
10	鉄筋比に関する問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
11	壁式鉄筋コンクリート造に関する問題一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
12	補強コンクリート造に関する問題一般問題	7~8問 40分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
13	全体問題	20問 70分で実施(テキスト参照) 問題範囲内での質疑応答 学生間で意見交換
14	期末試験	期末試験
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)	期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

作成者名記入→

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
構造力学2	建築学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	15回	30時間	必須

授業の概要

- ①建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を習得し少し複雑な構造体まで解くことが出来るようになる。
 ②力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。
 ③単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。
 ④構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。
 ⑤断面に関する数量について理解する。座屈について理解する。

授業終了時の到達目標

力の種類と大きさ、支持要素、変形などについて理解する。

- 1) 力の釣り合い式を使いこなせる。
- 2) 静定構造物に発生する反力・応力が求められる。
- 3) 断面に関する数量について理解する。(重心、断面1次・2次モーメント、断面係数、応力度、ヤング係数)

実務経験有無	実務経験内容
有	組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。 様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。

時間外に必要な学修

授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。

疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。

聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかな、もって観察をする癖をつける。

回	テ ー マ	内 容
1	1章 反力 2章 部材に生じる力	単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力・1-4 ラーメンの反力 練習問題 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施
2	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施
3	2章 部材に生じる力	応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施
4	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法 練習問題実施 解説
5		4-2 接点法 練習問題実施 解説
6	5章 断面に関する数量	図心・断面1次モーメント 練習問題実施 解説
7		断面2次モーメント・断面係数 練習問題実施 解説
8	6章 応力度	6-1 引張(圧縮)応力度
9		6-2 曲げ応力度 6-3 せん断応力度
10		6-4 許容応力度 6-5 許容曲げモーメント
11		7-6 曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ 練習問題実施 解説
12	12章 座屈	12-1 弾性座屈荷重 練習問題実施
13		反力～座屈まで練習問題実施 疑問等解説
14	期末試験	期末試験
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率
図説・建築構造力学(学芸出版社)	期末試験による評価 宿題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%

作成者名記入→ 作成者:小田綾子

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
照明デザイン2	建築学科／2年	2025年／後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	11回	16.5時間	選択

授業の概要

照明デザインという極めて専門的な分野を実務レベルで実践できる力を育てる。光とは何か?からRGBを使った実験などを通じ自然光を知ることで人工光を考察する。生活における光の役割、建築と光の関係を説き、コンセプトに基づき実空間に展開できる照明デザインスキルを身につける。1プロジェクトの照明計画を段階的に授業を通して仕上げる。JW-CADを使った配線図作成、照度計算ソフト(Dialux EVO)による3Dシミュレーション、言葉の構築などプレゼンテーションに必要な表現のスキルを習練する。

授業終了時の到達目標

【基本目標(C評価以上)】

照明計画における基本的なプロセス(調査・計画・設計・表現)を理解している。

簡易な図面上にラフプランを描き、光の配置を意識した設計ができる。

自身の考えを照明計画に反映し、空間と光の関係性について説明できる。

【標準目標(B評価以上)】

空間条件や使用目的を整理し、標準的な照明計画が立案できる。

動線や使い勝手を考慮したスイッチ計画を含む配線図をJW-CADで作成できる。

Dialux EVO を用いた3D照度シミュレーションによって計画内容の検証ができる。

配置図・配線図・CG等を含むプレゼン資料を整え、第三者と計画イメージを共有できる。

【発展的目標(A評価)】

計画全体においてコンセプトと照明手法が一貫し、意図が明快に伝わる構成になっている。

クライアントの期待を超えるような、提案性・先進性を兼ね備えた照明計画を提示できる。

説得力と魅力を備えたプレゼンテーションができる。

光の印象や空間の効果を、独創的かつ直感的な言葉で表現できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	照明デザイン事務所での一連の設計業務・照明器具の企画製作・現場監理

時間外に必要な学修

授業の復習 遅れがでたところの自習 日常で出会う照明の考察

回	テーマ	内 容
1	授業のアウトライン 光とは?	授業の到達点、身に付くスキル、光とは、光遊び (ミニテスト1)
2	照明器具という道具を知る	器具に触れ光の効果を見る、配光データの読み方、照度計算、照明用語
3	ダウンライト・ブラケット・スポットライトの攻略法	ダウンライトとスポットライトで使う明かりと魅せる明かりをつくる
4	建築化照明を使い分ける	コーブ・コーニス・バランス、きれいな収め方、適光適所の法則
5	光のコンセプトを表現する・1~4回の復習	手法を言語化するレッスン、照明計画のための事例と実施(ミニテスト2)
6	学外授業	企業の最新アップデート型オフィス環境を視察(中町)
7	プロジェクトの照明計画 テーマ発表	配線図のためのラフプラン (課題1)
8	プロジェクトの照明計画 プランニング	配線図 (課題2)、器具選び
9	プロジェクトの照明計画 表現の技術	3D照明計算ソフト/Dialux EVO活用術
10	プロジェクトの照明計画 表現の技術	3D照明計算ソフト/Dialux EVO活用術
11	プロジェクトの照明計画 プrezentation	伝わるプレゼンテーション 総括(課題3)
12		
13		
14		
15		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・メーカーの照明カタログ(DAIKO) ・課題の図面資料	ミニテスト1 5% ミニテスト2 20% 課題1 15% 課題2 20% 課題3 40%	100.0%	クラスルームを活用し、授業の案内や補足をしたり質問も受け付けます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態				
設備		建築学科／2年	2025／後期	講義				
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員				
90	15	30時間	必須	上田一喜				
授 業 の 概 要								
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の設備の目的・役割や、設備それぞれのメリットデメリットを学ぶ。 ・意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備の勘所を知る。 ・地球環境に配慮した設備デザインの手法を学習する。 								
授業終了時の到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計において、設備システムや環境諸条件を配慮した設計を行うための思考力の習得。 ・実務において設備設計者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 ・建築士資格や建築設備士取得のための設備に関する基本的知識の習得。 								
<p>(基本目標:C評価以上)</p> <p>・講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている</p>								
<p>(標準目標:B評価以上)</p> <p>自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きした経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる</p>								
<p>(発展的目標:A評価)</p> <p>建築インテリアデザイナーを行う意匠設計者の立場と、設備設計者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。</p>								
実務経験有無	実務経験内容							
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験							
時間外に必要な学修								
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。								
回	テ ー マ	内 容						
1	後期授業概要説明	建築設備の全体像、建築計画・建築環境と設備のマッチング 地球環境問題と建築・設備						
2	電気設備-1	電気設備の概要 発電、送電、受変電、動力、電灯、コンセント						
3	電気設備-2	弱電、情報関連設備 照明のエコ、シミュレーション						
4	電気設備-3	電気設備とデザイン、環境利用						
5	空気調和設備-1	空気調和設備の概要 気流分布、温熱環境、空調方式、空調制御、熱源方式						
6	空気調和設備-2	換気 空調のエコ、シミュレーション						
7	空気調和設備-3	空気調和設備とデザイン、環境利用						
8	給排水衛生設備-1	給排水衛生設備の概要 給水、給湯、排水、ガス						
9	給排水衛生設備-2	衛生のエコ 給排水衛生設備とデザイン、環境利用						
10	防災設備	消火設備、警報設備、避難設備、排煙設備 建築基準法、消防法との関係、防災設備とデザイン						
11	昇降機設備・機械式駐車設備	エレベーター、エスカレーター、ダムウェーター 昇降機設備とデザイン 機械式駐車設備のバリエーション						
12	設備設計と監理	設備設計における図面表現 設計上、監理上の留意点						
13	設備のエコ、環境性能評価	パッシブデザイン、建築計画とエコ 環境性能評価の手法						
14	維持管理、メンテナンス、更新	設備の耐用年数とメンテナンス 建築計画と更新性、更新時の配慮						
15	まとめ 設備と建築計画	建築物に求める環境性能、建築計画にとって適切な設備設計 意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備						
教科書・教材		評価基準	評価率	その他				
イラストでわかる建築設備 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%					

作成者:山根利之

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態			
卒業制作	建築学科/2年	2025/後期	演習			
授業時間	回数	授業時数	必須・選択			
90	85	170時間	必須			
授 業 の 概 要						
2年間の総括として自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。						
授業終了時の到達目標						
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。						
実務経験有無	実務経験内容					
有	建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。					
時間外に必要な学修						
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。						
回	テ 一 マ	内 容				
1	授業概要説明 第1課題「卒業制作」	テーマ設定のための調査				
2-30	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討				
31-35	個別中間プレゼン	設計案を説明できる概要発表				
36-84	デザイン案検討	作図、模型製作、ボード構成				
85-87	最終合同プレゼン	完成模型、作品ボード				
教科書・教材		評価基準	評価率			
		課題	100.0%			
		その他				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
計画論2		建築学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	15	30時間	必須	山根利之

授業の概要

住宅、集合住宅の空間構成手法、設計手法を事例を用いて学ぶ。
設計をまとめるための計画する方法を学ぶ。
反転授業形式で進める。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)建築・インテリアデザイナーとして必要な住空間の計画の知識が身につく。
・住宅計画の手法を理解できる
・住宅を構成する様々な要素を、実体験を通して理解できる
(標準目標:B評価以上)
・住宅計画の手法を設計に取り入れることができる
・住宅を設計するときに、実際の空間を理解し、正確に計画できる
(発展的目標:A評価)
・住宅計画をインテリアデザイン、エクステリアデザインまでトータルな視点で設計に取り入れることができる
・コンセプトに基づいた独創的な住空間の計画を提案できる。

実務経験有無	実務経験内容	
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験	

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する。

回	テ　ー　マ	内　容
1	授業概要説明 住空間の構成	計画のプロセス 1敷地計画、2平面的類型、3断面的類型 1機能計画、2動線計画、3ゾーニングとブロックプラン
2, 3	形の発想1　　反2	形態的発想1～2 テキスト解説＋各事例紹介
4, 5	形の発想2　　反2	形態操作的発想1～2 テキスト解説＋各事例紹介
6	インテリアデザイン1	インテリアデザインの発想
7	インテリアデザイン2	インテリアデザインの手法
8	インテリアデザイン3	光の様相、あかりのデザイン
9	インテリアデザイン4　　反	開口部のデザイン テキスト解説＋各事例紹介
10	エクステリアデザイン　　反	水と緑の様相 エクステリアとインテリア エクステリアデザインの発想
11	住空間構成手法1　　反	プランクロイドライ特 テキスト解説＋代表作数点解説
12	住空間構成手法2　　反	ル・コルビュジエ テキスト解説＋代表作数点解説
13	住空間構成手法3　　反	ミースファンデルローエ テキスト解説＋代表作数点解説
14	住空間構成手法4　　反	ルイスカーン テキスト解説＋代表作数点解説
15	住空間構成手法5　　反	安藤忠雄 テキスト解説＋代表作数点解説
教科書・教材		評価基準
住空間計画学		発表1回/人 (第1,6-8週はQ&Aのみ)
		評価率
		100.0%
		その他 分担して各回発表

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築史		建築学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	15	30時間	必須	河本 卓也

授 業 の 概 要

古代ギリシャ時代から、現代までの主要な建築を、写真や図版を見ながら学習し、建築と社会との関係性、構造の発展、意匠について説明する。また、単なる史実の伝達にとどまらず、現代における建築への向き合い方、設計におけるヒントなどへの気付きを得るために、毎回、授業の中で建築の模写(クロッキー)を行う。

授業終了時の到達目標

西洋における、各時代の建築様式の特徴と、その理念について理解する。

建築における構造、意匠(デザイン)とが、社会的また歴史的背景によって成立している事実について理解する。

現代におけるデザインの方向性、世界的な動向、注目される考え方などについて考察する。

(基本目標:C評価以上)

- ・建築の歴史の変遷を理解する
- ・その時代の意匠的な特徴を模写で捉えることができる

(標準目標:B評価以上)

- ・加えて、建築における表現とその背景にある社会の動きを関連して理解することができる

(発展的目標:A評価)

- ・加えて、現代の建築意匠について歴史的見地から考察し、考えをプレゼンテーションできる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験

時間外に必要な学修

教科書や紹介する映像や画像等で事前学習をして概要を理解しておくこと

模写について授業内で完成できない場合は次の週までに完成させデータを提出しておくこと

回	テ ー マ	内 容
1	概要説明 全史通観	スライドレクチャー、レビュー、ディスカッション、情報共有
2	古代建築(ギリシャ建築、ローマ建築)	該当する時代の建築模写
3	中世建築(ロマネスク建築、ゴシック建築)	該当する時代の建築模写
4	近世建築(ルネサンス建築、バロック建築)	該当する時代の建築模写
5	新古典主義、歴史主義、折衷主義	該当する時代の建築模写
6	日本建築史	該当する時代の建築模写
7	近代建築1(産業革命後の表現)	該当する時代の建築模写
8	近代建築2(芸術運動としての建築)	該当する時代の建築模写
9	20世紀建築1(モダニズム、その他)	該当する時代の建築模写
10	20世紀建築2(ポストモダン、その他)	該当する時代の建築模写
11	日本の住宅建築史	該当する時代の建築模写
12	現代建築1	該当する時代の建築模写
13	現代建築2	該当する時代の建築模写
14	レポート	「建築デザインと歴史、社会」等
15	まとめ、レビュー	レポート返却、まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
図説 建築の歴史	到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態				
施工		建築学科／2年	2025／前期	講義				
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員				
90	15	30時間	必須	上田一喜				
授 業 の 概 要								
・建築物の新築工事、改修工事を中心とした施工全体の流れと、個々の施工段階の内容を学ぶ。 ・建築設計者の立場から見た、建築施工の勘所を知る。 ・建築に関わるステークホルダーとその相関関係を理解する。								
授業終了時の到達目標								
・設計者として施工に配慮した建築設計を行うための思考力の習得。 ・実務において施工者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 ・建築士資格や施工管理技士資格取得のための施工に関する基本的知識の習得。								
(基本目標:C評価以上)								
・講義の内容を理解して、各講義ごとのレポートシートや期末課題を、設問に合わせて適切に記載出来ている								
(標準目標:B評価以上)								
自らの設計課題や建築やインテリアを見聞きした経験を、講義内容と論理的に結び付けて説明できる								
(発展的目標:A評価)								
建築インテリアデザイナーとしての立場と、施工者としての立場をよく理解し、相手の立場を配慮したコミュニケーション技術の基礎が身についている。								
実務経験有無	実務経験内容							
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験							
時間外に必要な学修								
講義内容について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。								
回	テ ー マ	内 容						
1	前期授業概要説明	建築物施工の一連の流れ、建築に関わるステークホルダー 建築設計者の立場から、施工及び施工者に対する基本的な考え方						
2	内装仕上げ工事-1	壁、床、天井等の下地、仕上げ						
3	内装仕上げ工事-2	建具、ガラス、金属、造作、ユニット等						
4	設備工事、外構工事	電気、空気調和、給排水衛生、昇降機・機械式駐車場、防災設備等 植栽、舗装、工作物、外構設備等、免震対応、ZEB、再生可能エネルギー						
5	外装仕上げ工事-1	屋根(防水、屋根)、外壁(RC、ECP、ALC、PC、CB)、断熱						
6	外装仕上げ工事-2	仕上げ(石、左官、タイル)、サッシュ、カーテンウォール						
7	躯体工事-1	RC(型枠、鉄筋、コンクリート)						
8	躯体工事-2	SRC、S、地震に対する技術						
9	改修工事	耐震改修、防水改修、外壁改修、設備改修、改修仮設 リニューアル、リノベーション、コンバージョン						
10	土工事	山留、杭、掘削						
11	工事管理	建築生産の流れ、工事に携わる人々と組織体制 ゼネコンとサブコン、建築施工の仕事、工程						
12	工事請負契約、積算	設計図書の役割、工事請負契約の構成、施工者の法的責任 発注形態、工事見積の構成、積算の考え方						
13	準備工事、解体工事	地鎮祭、調査、仮設工事、改修仮設 解体、建設産廃						
14	竣工、維持保全	検査、引き渡し、竣工式 LCC、竣工後の点検・保守、修理・修繕・更新						
15	まとめ 施工と設計の違い、施工者と設計者の違い	設計者から見た施工者、施工者から見た設計者 工事管理と工事監理、工事請負契約と設計監理契約 設計図を介した建築主、設計者、施工者の意思伝達						
教科書・教材		評価基準	評価率	その他				
施工がわかる イラスト建築生産入門 適宜配布資料、映像資料等を提供		各講義ごとのレポートシートの内容 期末課題の内容	50% 50%					

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態			
室内環境学	建築学科/2年	2025/前期	講義			
授業時間	回数	授業時数	必須・選択			
90	15	30時間	必須			
授業の概要						
私達を取り巻く自然環境、都市環境、そして快適な室内環境の要素である、【光・熱・空気・風・音】の基礎知識を学ぶ						
授業終了時の到達目標						
光・熱・空気・風・音等の環境要素の基礎を理解する。 室内環境を取り巻く要素を知り、コントロールすることで快適かつ省エネな暮らし方を提案できるよう知識を習得する。						
実務経験有	実務経験内容					
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験					
時間外に必要な学修						
・自分が生活や活動する室内空間が何によって快適に保たれているかを意識して観察する。						
回	テーマ	内 容				
1~3	第一章 光環境	光環境の基礎知識について理解する。 ①授業概要、1-1 視覚、1-2 照度と輝度 ②1-3 昼光、1-4 人工照明 ③1-5 照明計画、2 色彩				
4~8	第二章 溫熱環境	温熱環境の基礎知識について理解する。 ④1 溫度と熱移動 ⑤2 室温と熱負荷 ⑥3 湿度と結露 ⑦前半テスト ⑧4 体感温度、5 太陽と日射 ⑨太陽と日射				
9~10	第三章 空気環境	空気環境の基礎知識について理解する ⑩1 室内の空気汚染物質、2 自然換気 ⑪3 機械換気、4 換気計画				
12~14	第四章 音環境	音環境の基礎知識について理解する ⑫1 音の性質 ⑬2 室内の音 3 室内の音響 4 騒音と振動 ⑭後半テスト				
15	第五章 地球環境 特別講義	地球温暖化の今と住宅の温熱環境について理解する。 ⑮特別講義 講義後レポート提出				
教科書・教材	評価基準	評価率	その他			
図説やさしい建築環境、A4ファイル	・前半テスト ・後半テスト ・レポート提出	45% 45% 10%				

科目名 照明デザイン I	学科／学年 建築学科/2年	年度／時期 2025年度/前期	授業形態 演習			
授業時間 90	回数 15	授業時数 30時間	必須・選択 選択			
重川隆一						
授業の概要						
照明器具の基礎となる光源と照明器具の特性について学び、主には実習を通して光の原理や現象あるいは海外のあかり文化を体験し、そこから照明効果への応用について理解を深めていく。						
授業終了時の到達目標						
照明の基礎とそれに関わる電気の安全知識について習得する。また、実習を通して光の効果を予測することを学び、空間認知を前提とした照明計画技術の基礎を習得する。後半の実習では様々なプロダクトの制作を通じて、楽しみや喜びに変わる光の体験によって光への興味をより深めることを到達目標としている。						
実務経験有 有	実務経験内容					
	照明メーカーに10年間勤務し、照明器具設計と照明デザイン業務に携わる。その後、照明デザインの会社を設立し、現在ではプロダクト開発まで手がけている。多岐にわたる実績から生まれた、光を楽しむという経験から照明を学ぶプログラムを実践している。					
時間外に必要な学修						
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。						
回	テ　ー　マ	内　容				
1	光のガイダンス I	照明に関わる様々な仕事について紹介				
2	光のガイダンス II	人類の進化とあかりの歴史について紹介 基本光源である太陽について考察する				
3	照明に必要な電気の基礎知識	電気の基礎用語についての説明				
4	手作り照明(ハウスランプの製作)ガイダンス	白熱電球の点灯回路の説明 照明器具と電気用品安全法について説明				
5	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する				
6	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する				
7	手作り照明(ハウスランプの製作)	光の効果を予測しながら照明器具を製作する				
8	住宅の照明計画ガイダンス	住宅照明におけるエリアごとの注意点を説明 照明カタログの基本的な使い方を説明				
9	住宅照明計画	空間認知による照明計画				
10	住宅照明計画	空間認知による照明計画				
11	住宅照明計画	空間認知による照明計画				
12	インテリア・ハーバリウムで光の屈折率を学ぶ	空気の屈折率と液体(水やオイル)の屈折率の違いによっておこる現象を実際に体験し、照明器具への応用について理解を深める				
13	あかりと香り	あかりと香りのヒーリング効果について アロマオイルの試香				
14	照明制御 実習	一般照明と演出照明の照明制御について学ぶ。 演出照明プログラムについて実機操作によってカラーミキシングを体験する。				
15	手作り照明及び住宅照明計画の課題統括	提出された課題を個々に紹介し、高評価点や改善点を説明する				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他		
		提出課題 2種類 手作り照明及び住宅照明プラン 最重要評価基準 提出期限の厳守	各50%	【準備学習】 授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常に準備しておくこと。		

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
構造1 構造	建築学科/2年 インテリアデザイン学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	15回	30時間	必須

授業の概要

- ①建物にはたらく力は、どのような力があるか理解する。
 ②木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における材料の特性を理解・習得する。
 ③木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における構造形式・構成を理解・習得する。
 ④主体構造によって使用する材料や各部の作り方の違いについて理解・習得する。

授業終了時の到達目標

- ①建物にはたらく力には、どのような力があるか名称が分かる。
 ②木造建物の特徴と各部構造の骨組み及び内部、外部仕上げの構成が理解できる。木造の耐力壁の計算が出来る。
 ③鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造における特性と各部の骨組み構成を理解できる。
 ④木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の各種構造において使用する材料の強度・特徴について理解できる。
 ⑤上記のそれぞれの建物の基本の理解から、独自の構造・仕上げに発展させることができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計等実務経験。 様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。

時間外に必要な学修

授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。課題プリントに取り組み、遅れず提出すること。
 疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的し、その単元の疑問はその場で解消する。
 聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもつて観察をする癖をつける。

回	テーマ	内容
1	シラバスの説明 第1章 建物にはたらく力と構造計画	建築構造を学ぶにあたって。 1. 建物にはたらく力 2. 地震に対する対策 3. 建物全体の構造計画
2	第2章 木構造	1. 木材:木材の特徴、木質材料 2. 木構造の基礎知識:木造の特徴、構造形式
3		3. 在来工法:基礎、地業、軸組
4		3. 在来工法:柱頭・柱脚金物の位置基準、耐力壁の壁量計算、耐力壁の配置
5		3. 在来工法:小屋組、床組、階段、接合部
6		4. 枠組壁工法:木材・面材の種類・釘、金物の種類 ○木構造の振り返り
7	第3章 鉄骨造	1. 鋼材:鋼材の特徴、鋼材の形状 2. 鉄骨造の基礎知識:鉄骨造の特徴、構造形式
8		3. 鉄骨構造:接合、部材の設計、各部の構造、床板、階段、耐火被覆
9	第4章 鉄筋コンクリート造	1. コンクリートと鉄筋:コンクリートの特徴、鉄筋の特徴 2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識:鉄筋コンクリート造の特徴、鉄筋コンクリート造の原理、構造形式
10		3. 鉄筋コンクリート構造:鉄筋の配筋計画、各部の構造、階段 4. 壁式鉄筋コンクリート造:壁式鉄筋コンクリート造、壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造
11	第5章 その他の構造 第6章 基礎	5章:1. 鉄骨鉄筋コンクリート造、2. 補強コンクリートブロック造、3. プレストレストコンクリート造 6章:1. 基礎、2. 地盤
12	第7章 下地と仕上げ	1. 防水 2. 各部の下地と仕上げ:屋根、壁、床、天井
13		3. 開口部、4. 階段、5. 和室 ○鉄骨造、鉄筋コンクリート造、その他の構造の振り返り
14	期末試験	期末試験
15	構造まとめ	試験解説 全体まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
やさしい建築一般構造(学芸出版社)	期末試験による評価 課題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

作成者名記入→

作成者:櫻庭誠

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
構造力学1 構造力学	建築学科/2年 インテリアデザイン学科/2年	2025/前期	講義
授業時間 90分	回数 15回	授業時数 30時間	必須・選択 必須
			担当教員 櫻庭 誠

授業の概要

- ①建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を理解し習得する。
- ②力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。
- ③単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。
- ④構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。

授業終了時の到達目標

- ①力の基礎：力の表現・モーメント・力の釣り合いが理解できる。
- ②反力・応力計算において釣り合い条件式を使いこなす事が出来る。
- ③静定構造物に発生する反力・応力(曲げモーメント:M・せん断力:Q・軸方向力 N)を仮定をし、反力・応力が求められる。
- ④求めた反力・応力をもとに(曲げモーメント図・せん断力図・軸方向力図)応力図が描ける。
- ⑤静定トラスの解法が(切断法・接点法・図解法のいずれかで)出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	組織設計事務所で構造担当、構造設計事務所での構造設計、監理業務及び耐震補強設計実務経験。 様々な建物の安全性確保のための構造設計の経験を活かす、より具体的・実践的な指導を目指す。

時間外に必要な学修

授業範囲は必ず事前に教科書に目を通すこと。課題プリントに取り組み、遅れずに提出すること。

疑問に思ったことなどはメモをするなどし、質問を積極的にし、その単元の疑問はその場で解消する。

聞いたことのない建築専門用語はインターネットなどで自分で調べてみる。街中で見かける建築がどんな構造を採用しているのかなど興味をもって観察をする癖をつける。

回	テーマ	内 容
1	シラバス説明・構造力学概要 序章 力の基礎	構造に役に立つ計算式をやってみる(プリント) 力の基礎:力の表現、力のモーメント
2	序章 力の基礎 1章 反力	力の基礎:分布する力、力の釣り合い 1-1構造物の種類と表現
3	1章 反力	1-2 単純梁の反力・1-3 片持ち梁の反力 1-4 ラーメンの反力 練習問題実施
4	2章 部材に生じる力(応力)	2-1 応力の種類 2-2 応力の計算方法(単純梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施
5		2-2 応力の計算方法(片持ち梁)集中荷重・分布荷重 練習問題実施
6		2-2 応力の計算方法(単純ラーメン)集中荷重・分布荷重 練習問題実施 振り返り
7	2章 部材に生じる力(応力)+(応力図)	単純梁:反力・応力・応力図 練習問題実施 片持ち梁:反力・応力・応力図 練習問題実施
8		単純ラーメン:反力・応力・応力図 練習問題実施
9	3章 静定構造の実用的解法	3-1 せん断図の作図法 単純梁・単純ラーメン
10		3-2.3 曲げモーメント図の作図法 単純梁・単純ラーメン
11		3-4 重ね合わせの原理 単純ラーメン
12	4章 静定トラスの解法	4-1 切断法
13	4章 静定トラスの解法	4-2 接点法・4-3図解法 振り返り
14	期末試験	期末試験
15	構造力学まとめ	試験解説 全体まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
図説・建築構造力学(学芸出版社)	期末試験による評価 課題取組得点で評価	期末試験 60% 提出宿題 30% 授業態度 10%	

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
インテリア研究	建築学科 / 2年	2025 / 通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90	26	52時間	選択

授 業 の 概 要

インテリアに関するテーマをそれぞれが設定し、それに関する研究と発表を行う。

授業終了時の到達目標

インテリアに関する専門知識を身に付ける。インテリア全般関すること、または、分野を絞った専門性の高い内容を設定し、研究を進める。卒業制作の題材設定の参考になる資料の作成も行う。

(基本目標:C以上)

・自身の興味のある分野を決め、資料を集めることができる。

(標準目標:B以上)

・分野を定め、資料を読み解き、まとめることができる。

・校外調査の内容をわかりやすくまとめることができる。

(発展的目標:A)

・テーマ設定後、資料の読み解き、事例研究、校外調査を一貫して行いわかりやすい資料にまとめ発表することができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	設計事務所にてインテリアデザイナーとしての経験。

時間外に必要な学修

興味がある分野を明確にし、何故興味があるのかを他者に説明できるようにしておく。

回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	授業の進め方について 資料の集め方 web活用の方法		
2	ディスカッション テーマ設定	想定される分野や興味のある分野について意見を交換する それぞれの研究テーマを決定する		
3~5	研究①	研究計画作成 資料収集		
6	調査①	校外調査(広島市近郊)		
7~11	研究②	資料収集 意見交換		
12	調査②	校外調査(広島市近郊)		
13・14	研究③	資料の読み解き、事例研究 意見交換		
15	中間発表	各自発表		
16	前期の研究内容確認と後期計画立案	前期内容を振り返り、後期の予定を立案する		
17・18	研究④	資料収集、資料の読み解き、事例研究 意見交換		
19	調査③	校外調査(広島市近郊)		
20・21	研究⑤	資料収集、資料の読み解き、事例研究、発表準備 意見交換		
22	調査④	校外調査(広島市近郊)		
23	最終発表準備	発表用資料作成		
24	プレ最終発表	各自発表後、意見交換、発表内容修正		
25	最終発表準備	プレ最終発表を受けて各自修正		
26	最終発表・まとめ	各自発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他の評価
特になし 必要資料は各自で集めること		発表 作成資料	60% 40%	

作成者:實藤優子

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
業界研究	建築学科/2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90	30	60時間	必須

授業の概要

所属する学科の将来像として想定される業界についてのリサーチ、課題研究、研修、聴講などを通して、必要とされる人材像や関連知識を自主的に学ぶ。さらに、キャリアパスや関連分野への関心を含め学んだことを学科講師と共有し、フィードバックを得ながら視野を広げ、業界人、社会人として必要な汎用的能力と教養を養う。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)

- ・自らのテーマに沿って課題を立て、継続的なリサーチと報告ができる

(標準目標:B評価以上)

- ・自らのリサーチ等で得た情報を周囲に共有し、対話を深めることができる

（發展的目標：A評価）

- ・学科や専門分野を横断し、多角的な視点でデザインやクリエイティブについて考えることができる
 - ・自らのプロジェクトや作品を発表等の機会を得て社会に対して問うことができる

実務経験有無

實務經驗內容

建築設計事務所での実務経験

時間外に必要な学修

3KAN教育の成長実感のた定期的に学びを振り返り、疑問点や定着が十分でないところを解決する意識を持つ。社会的な出来事に关心を持ち、学んでいる分野との関連や見通しについて考え、日常の課題に生かす

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD応用		建築学科/2年	2024/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	30	60時間	必須	衛藤翔平

授業の概要

建築CAD製図で身に付けた技術をベースに、さらにその他のソフトウェアを活用し、プレゼンテーション力を高める技術を習得する。プレゼンテーションボードを制作する上で、ひとつのイメージ(画)の出来栄えは非常に重要。授業課題やコンペなどで高いレベルのプレゼンテーションボードが制作できるようになるためのプロセスを体験を通して学ぶ。そのためには、パソコンとソフトウェアの技術だけでなく、絵心や視覚情報伝達の技術(グラフィックデザインの基礎)も重要であり、構想力や編集力といった「考える力」を養うことに主眼を置く。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)

- 課題の趣旨を理解し、各回の授業で指示された作業を進めることができる

(標準目標:B評価以上)

- 課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる

(発展的目標:A評価)

- 課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる

- デザインを通して社会とコミュニケーションできる

実務経験有無	実務経験内容	
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験	

時間外に必要な学修

専門雑誌やwebサイトのチェック。幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと

回	テ　マ	内　容
1	デジタルプレゼンテーション技術	画像のレタッチの基礎
2		図面を魅力的に仕上げる
3		画像合成1 添景の合成
4		画像合成2 テクスチャーの貼り付け
5		画像合成3 背景への合成
6		ソフトウェア小技レクチャー
7		総括課題
8		↑
9	ビジュアルデザインの基礎技術	ビジュアルデザイン1 名刺デザイン(文字の役割)
10		ビジュアルデザイン2 ポスターのデザイン
11		ビジュアルデザイン3 フライヤーのデザイン
12		プレゼンテーション演習 好きを伝える
13		↑(発表)
14		前期総括課題 修了制作改善
15		↑(卒業制作に向けて)
16	卒業制作プレゼンテーション作成	毎週卒業制作のプレゼン資料を段階的に制作
17		↑上記について全体への指導、個別指導でフィードバック
18		↑
19		↑
20		↑
21		↑
22		↑
23		↑
24		↑
25		↑
26		↑
27		↑
28		↑
29		↑
30		↑

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
-	到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
建築CAD製図3	建築学科/2年	2025/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
前180 後270	21	96時間	必須

- ・CADシステムを扱う上で、必要な基礎知識を習得する。
- ・必要な資料から平面図、立面図をJWCADを使用して作図する。
- ・建築CAD検定試験3級、2級、準1級の受験対策と、JWCADの基本操作を実際に作図しながら、より円滑な操作の習得を目指す。

授業終了時の到達目標

(基本目標:C評価以上)

- ・課題が4割程度作図できており、CADの基本操作が理解できる。

(標準目標;B評価以上)

課題の7割以上が作図でき、課題やCAD操作の質問をし、それを作図に反映できる。

(発展的目標;A評価)

- ・建築CAD検定で3級においては確実に、2級では取得できると思われる作図技能を取得しており、課題を理解し複数の手順で書くことで、自分の作図を確認修正することができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での設計・設計監理の業務。

時間外に必要な学修

CADの操作は慣れが必要です、できるだけ多くの時間CADに触れる機会をつくると良いと思います。特に夏休み期間はCADに触れる機会が少なくなり操作を忘れてしまい、10月の検定試験に慌てることが毎年見受けられます、週に1~2回はパソコンを開き配布プリントを見て少しでも授業の復習をしてください。

他の授業でもCAD使える機会があれば使ってみましょう、操作で分からぬところは質問してみてください。

JwCADはフリーソフト汎用ソフトです、様々な作図を試してみましょう。

回	テーマ	内 容
1	検定課題の概要の説明,Jw_cad 概要、操作の復習。	検定内容の説明操作の復習。 3級過去問題プリント又はテキストによる練習。
2	3級過去問題による練習	3級過去問題プリント又はテキストによる練習。
3	JwCADの作図以外でよく使う機能の説明	図面作図以外で必要な操作の解説、プレゼンなどに役立つ機能。
4	2級過去問題(木造平面詳細図)による演習	検定内容の説明、プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。
5		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習。
6		2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習、復習。
7	2級過去問題(木造立面図)による演習	2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習。
8		2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習、復習。
9	2級過去問題による様々な屋根形状、立面図の演	2級立面図のみ過去問題から2課題出題。
10		2級立面図のみ課題から出題解説。(どの級を受験するか確定する)
11	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
12		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。
13	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
14		前時間からの課題作図終了後、チェック復習。
15	これまでの課題の総復習	これまでの課題チェック復習。(夏休み前の確認)
16	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
17	準1級2級3級過去問題による小テスト形式	準1級と2級は一課題、3級は二課題を過去問題から出題、作図。
18	準1級、3級過去問題。2級は立面図を集中チェック	準1級3級は作図時間の再確認、2級は屋根形状立面の確認。
19	準1級3級は過去問題の演習、2級は立面図の演	準1級3級受験の弱い部分の強化、2級屋根形状立面の確認、復習。
20	試験前対策	試験前、総点検。
21	試験後復習	試験後の自己採点復習。
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書:建築CAD検定試験 公式ガイドブック 課題資料:プリント配布 教材:三角スケール、マーカー等	各課題は基本授業終了後に提出し授業中に作図した内容、到達程度での評価。	100.0%	質問は急ぎの事柄がない限り授業終了後の昼休憩時間にも個別に受け付けています

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
建築製図2	建築学科/2年	2025/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	30回	60時間	選択

授業の概要

建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。

1年次に作図した木造住宅にとどまらず、非木造非住宅の建物の作図を通して他構造他用途へ理解を広める。

授業終了時の到達目標

1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。

また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。

(基本目標:C評価以上)

- ・課題の内容を正しく作図できる
- ・手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる

(標準目標:B評価以上)

- ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる
- ・作図した図面から立体空間を認識できる
- ・エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる

(発展的目標:A評価以上)

- ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる
- ・作図した図面から立体空間を認識できる
- ・求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験

時間外に必要な学修

課題で作図している内容を街の中にある施設に置き換えて確認してみること。

また、各部分の寸法を実際に測ってみること。

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、非木造コースの選択についての説明
2	第1課題:「鉄骨造コミュニティ施設 配置図・平面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の配置図、各階平面図を作図する
3		
4		
5		
6	第2課題:「鉄骨造コミュニティ施設 断面図・立面図」	教科書の鉄骨造2階建てコミュニティ施設の断面図、立面図を作図する
7		
8		
9	第3課題:「RC造(ラーメン)住宅 矩計図」	教科書のRC造(ラーメン)2階建て住宅の矩計図を作図する。
10		
11		
12	第4課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習—RC造コミュニティ施設」	課題説明 エスキース
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		平面図作図
21		平面図・立面図作図
22		立面図・断面図作図
23		断面図作図
		面積表等作図・全体調整
24	卒業制作	卒業制作中間プレゼン 卒業制作を進める
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式	全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
建築製図2	建築学科／2年	2025/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90分	30回	60時間	選択

授業の概要

建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。
1年次に作図した木造住宅の構造図を作図して構造的な内容の理解を深める。

授業終了時の到達目標

1年時に習得した能力に更に構造体も含めて建築物を理解し、作図できるようになる。
また、実際の二級建築士製図の試験の課題に対して回答を作図できるようになる。

(基本目標:C評価以上)

- ・課題の内容を正しく作図できる
- ・手書きでエスキスやスケッチができ、考えを整理できる

(標準目標:B評価以上)

- ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる
- ・作図した図面から立体空間を認識できる
- ・エスキスやスケッチの途中で担当教員のチェックを受けてプランを修正することができる

(発展的目標:A評価以上)

- ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる
- ・作図した図面から立体空間を認識できる
- ・求められた条件に適合する施設を設計、提案することができる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験

時間外に必要な学修

課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。

また、各部分の寸法を実際に測ってみること。

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	年間予定及び木造コース、一般構造コースの選択についての説明
2	第1-1課題:「木造住宅 基礎伏図」	教科書の木造2階建て住宅の基礎伏図を作図する。
3		
4	第1-2課題:「木造住宅 1階床伏図」	教科書の木造2階建て住宅の1階床伏図を作図する。
5		
6	第2-1課題:「木造住宅 2階床伏・1階小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の2階床伏・1階小屋伏図を作図する。
7		
8	第2-2課題:「木造住宅 小屋伏図」	教科書の木造2階建て住宅の小屋伏図を作図する。
9		
10	第3課題:「木造住宅 軸組図・軸組詳細図」	教科書の木造2階建て住宅の軸組図・軸組詳細図を作図する。
11		
12	第4課題:「二級建築士製図試験過去課題模擬演習－木造2階建て住宅」	課題説明 エスキース
13		平面図作図
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		立面図作図
21		矩計図作図
22		矩計図作図
23		面積表等作図・全体調整
24	卒業制作	卒業制作中間プレゼン 卒業制作を進める
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式	全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%	質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
建築設計演習2	建築学科／2年	2025／通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90	30	60時間	選択

授業の概要

建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築デザイン(1年生)と合同授業。

授業終了時の到達目標

建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、卒業制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。

(基本目標:C評価以上)

・建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる

・基本的な建築計画に沿って設計できる

(標準目標:B評価以上)

・建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる

・基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる

(発展的目標:A評価)

・建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる

・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる

実務経験有無	実務経験内容
有	建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。

時間外に必要な学修

設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。

回	テーマ	内容	
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」	「場所をデザインする」オープンスペース(1, 2年生混成共同設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。	
2～5	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー	
6	プレゼン発表 5/28		
7	第2課題「図書館」	地域に開かれたコミュニティ図書館(1, 2年生混成共同設計) 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、	
8～12	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー	
13	プレゼン発表 7/30		
14	第3課題「美術館」	周辺環境に配慮した開かれた美術館(個人設計) 美術館計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、	
15～19	デザイン案発表、デザインレビュー	デザイン案発表、デザインレビュー	
20	2年生プレゼン 11/5		
21～25	第4課題「卒業制作」 卒制作中間プレゼン	敷地設定、事例調査、資料収集、デザインテーマ・コンセプト検討。	
26	1年生プレゼン 12/10	1年第3課題の審査講評	
27～30	第4課題「卒業制作」継続		
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式	課題・レポート	100.0%	第4課題は評価に加えない。提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
住宅デザイン	建築学科/2年	2025/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択
90	26	52時間	選択

授業の概要

住宅空間の考え方の基礎を学び、漠然とした「空間」というものを自分のコンセプト通りに操作できるようにする。また各課題を通して図面の描き方の基本事項を1年次より引き継ぎ、手描きにて具現化する。
教科書「建築鑑賞入門」を参考として、デザインの考え方を教授する。

授業終了時の到達目標

住宅をデザインする上で、学生自らの考案または創造した形態を、誤解なく第三者に伝えるための図面の描き方を修得する。

- ・(A評価) 第三者を魅了するコンセプトの提案、および模範的な図面を手描きできる。
- ・(B評価) コンセプトを図面に反映させることができる。平均的な図面を手描きできる。
- ・(C評価) エスキス、基本図面(三面図、平面図、立面図、断面図)を手描きできる。

実務経験有無	実務経験内容
有	事務所主催。 設計、監理業務に関する一連の実務経験

時間外に必要な学修

次回授業範囲の教科書を予習する。

授業でのアドバイスを家庭学習として作業をすすめておくこと。

回	テーマ	内容
1	実習課題1(デスク三面図トレース)	授業内容、評価方法の説明。基本図面の描き方の解説。 家具図面(三面図)のトレース
2-5	実習課題2(自分の部屋にあったらいい家の家具)	コンセプトの考え方、エスキス方法の解説。 アイソメの描き方
6-15	実習課題3(マンションリノベーション)	Beforeマンションの図面と実際の内観スライドを確認しながら、リノベーションアイデアをまとめる。 図面を正しく読み解く力を養う。 展開図、照明・電気図の描き方
16-26	実習課題4(住宅設計)	法規、構造等を考慮した、正確な図面を作成する。 コンセプトからプランを導き出す。 プレゼンにて自分の考えを表現する。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
建築鑑賞入門(鹿島出版会)【貸与】 製図道具一式(平行定規含む)	課題と提出状況および積極的参加度。全課題を提出とし、その内容や提出期限を考慮して総合的に評価する。	100%	時間が必要な質問がある場合はメールにて予約を取ること。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態				
設計実務演習		建築学科／2年		2025／通年				
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員				
90	26	52時間	選択	上田一喜				
授業の概要								
擬似的な設計事務所の環境で実務プロセスについて体験的に学ぶ。アイデアコンペ、実施コンペ、外部からのデザイン依頼、実際の設計事務所のプロジェクトの連携など、随時実情に合わせたスケジュールで並行的に進捗していくプロジェクトを個人やチームで分担し進めていく。毎週次回までの作業が課され、それを元に毎週レビューを行い、軌道修正の指示を受けて改善しとめていくプロセスを繰り返し、設計事務所で必要とされる実務スキルを習得する。								
授業終了時の到達目標								
(基本目標:C評価以上)								
・与えられた担当課題の趣旨を理解し、スケジュールに沿って作業を進めることができる								
(標準目標:B評価以上)								
・与えられた担当課題について標準的なレベルでプロジェクトをまとめることができる								
(発展的目標:A評価)								
・与えられた担当課題について社会に通用するレベルでプロジェクトをまとめることができる								
・デザインを通して社会とコミュニケーションできる								
実務経験有無	実務経験内容							
有	建築設計事務所での設計業務全般と支援を通してコンペ受賞、雑誌掲載、メディア掲載等							
時間外に必要な学修								
専門雑誌やwebサイトのチェック、幅広くカルチャーや社会に興味を持ち設計・デザインへのヒントを探る習慣を持つこと								
回	テーマ	内 容						
1	産学や他プロジェクトに対応	毎回プロジェクトの進捗に合わせて以下のサイクルで体験的に学ぶ						
2		・プロジェクトのアサイン						
3		・デザインレビュー(毎週)						
4		・プロジェクトミーティング						
5		・プレゼンテーション、引き渡し等						
6		↑						
7		↑						
8		↑						
9		↑						
10		↑						
11		↑						
12		↑						
13		↑						
14		↑						
15		↑						
16		↑						
17		↑						
18		↑						
19		↑						
20		↑						
21		↑						
22		↑						
23		↑						
24		↑						
25		↑						
26		↑						
教科書・教材		評価基準	評価率	その他				
-		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%					

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
空間デザイン	商品企画学科／1年 建築学科／2年 インテリアデザイン学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択
90分	26回	52時間	選択

授業の概要

①自分に出会う。②形・マテリアルに出会う。知る。③マテリアルからイメージする。④深くりサーチする。深堀する。⑤伝える力を身に着けていく。⑥展開していく。

段階的に思考を深めて、毎週アウトプットしていくことで、理解を深めていく。実際活躍している特別講師を招いて課題を行うことも想定。

授業終了時の到達目標

(基本目標: C評価以上)

- ・課題を提出することができる。

(標準目標: B評価以上)

- ・条件を整理し標準的なアウトプットができる
- ・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料を制作できる

(発展的目標: A評価)

- ・コンセプト・提案性を持つ空間設計・デザインを考えられる
- ・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる
- ・第三者を魅了するプレゼン資料を制作できる

実務経験有無

実務経験内容

有 ure主催。 設計、監理業務に関する一連の実務経験

時間外に必要な学修

授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。

また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。日常生活の中で意識して生活をする。

回	テ　ー　マ	内　容	
1	①自分に出会う。	デザインをする前に自分のことをしる、伝える。	
2	同上	同上	
3	②形・マテリアルに出会う。知る。	空間、プロダクトはいろんなマテリアル、カラーで構成されていること。自分が選ぶ素材の特性を理解する。	
4	同上	同上	
5	同上	同上	
6	同上	同上	
7	③マテリアルからイメージする。	マテリアルからイメージして形を作るスタディをする。	
8	同上	同上	
9	同上	同上	
10	同上	同上	
11	同上	同上	
12	④深くりサーチする。深堀する。	様々な物事を理解して、深く知ること。デザインする始まりを考える。	
13	同上	同上	
14	同上	同上	
15	同上	同上	
16	同上	同上	
17	⑤伝える力を身に着けていく。	自分で考えたことを誰かに提案するスタディを行う。	
18	同上	同上	
19	同上	同上	
20	同上	同上	
21	同上	同上	
22	⑥展開していく。	①～④の内容を踏まえて課題に取り組む。	
23	同上	同上	
24	同上	同上	
25	同上	同上	
26	同上 2024年最終授業	同上	
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	課題の提出、取り組みの姿勢 授業での発表を総合的に判断して評価する。	100.0%	授業中に質問、確認の時間を持つように進行します。